

大御所時代

11代将軍徳川家斉は、約50年間の治世をおこなった。このうち、特に文化～天保期を大御所時代と称し、幕政退廢の代名詞に挙げられる。国内には風紀の退廢や賄賂の横行、治安悪化による無頼漢の跋扈が目立ち、国外には異国の接近を経験した。寛政の改革で問題となった内憂外患は解決されず、悪化する一方であった。

○将軍家斉の治世—寛政～天保期

●長期的な将軍在職

1787年、11代将軍に⁽¹⁾ _____ が就任した。

→(1)の補佐として老中には白河藩主⁽²⁾ _____ が就任し、質素儉約を重視する諸改革⁽³⁾ _____ を実施した。

⇒1793年、尊号一件などで対立を増やした(2)が退陣した後、

(1)は1804～30年の文化・文政期、^{てんぽう}天保期の一時期もなお将軍に在職した。



図1 徳川家斉

●文化期と文政期の変化と問題

<商業・文化の成長と問題>

文化期(1804～18年)、寛政の改革の質素儉約が維持された。

⇒文政期(1818～30年)、幕府は品質の劣る貨幣を大量に流通させ、次の結果を招いた。

①物価の上昇に伴う幕府財政の潤沢

…将軍や大奥^{おおおく}の生活が華美になり、賄賂^{わいろ}も横行して政治が腐敗

②商業の活発化と庶民文化の発達

…豪農・地主が増長する一方、百姓が土地を失って荒廃地域が発生



図2 大奥

<治安問題と対策>

農村の荒廃が深刻化し、その過程で村落秩序から脱落する者がいた。

→そのような無宿人^{むしやくじん}や博打^{ぼくち}を生業とする博徒^{ぼくど}が、関東の農村で増えて治安が乱れた。

⇒幕府は治安回復のために次の対策をとった。

①1805年、⁽⁴⁾ _____ 設置

…役人から8名を(4)に選出し、2人1組で関八州^{かんぱっしゅう}(関東8カ国)を巡回させ、領主の区別なく(例えば大名領でも)無宿人や博徒の逮捕・取締りを実行

②1827年、^{よせば}寄場組合^{よせばくみあひ}結成

…領主の違いをこえて、近隣の村々から成る組織寄場組合を(4)の下に結成させ、協同して地域の治安回復や風俗の取締りを実行

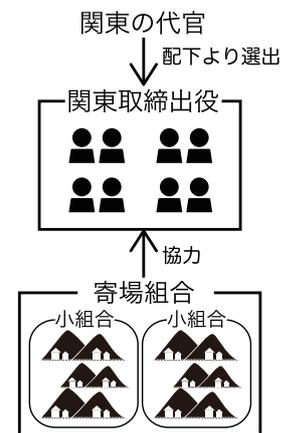


図3 関東取締出役

●天保期の凶作

天保期の1833～36年、収穫が例年の半以下になり、全国的な米不足を招いて、

⁽⁵⁾ _____ と呼ばれる全国的な飢饉^{ききん}となった。

→困窮した人々が農村・都市にあふれ、百姓一揆^{ひやくしやういつぎ}・打ちこわしが相次いだ。

⇒しかし、幕府・諸藩は適切な対策を立てられなかった。



(5)は1836年が特に厳しく、極度に達した地域では激しい百姓一揆が起こった。

⇒特に⁽⁶⁾ _____ 国の郡内騒動と三河国の加茂一揆が有名である。

○大御所家斉の治世—天保期

●実権の掌握維持

天保期の1837年、徳川家斉が将軍職を譲り、⁽⁷⁾ _____ が12代将軍に就任した。
→しかし、家斉は**大御所**として実権を握り、1841年の死去まで治世を続けた。
⇒家斉の治世は約50年間におよび、特に文化～天保期を大御所時代とも呼ぶ。
◇大御所時代…この期間の政治は大御所政治と呼ばれ、幕政退廃の代名詞



図4 徳川家慶

●武士主導の反乱と影響—内憂

「天下の台所」の⁽⁸⁾ _____ でも、飢饉の影響はなお残り、餓死者が相次いだ。
→一方で富裕な商人は米を買い占めて暴利を獲得し、町奉行は窮民救済策をとらない。
⇒そして、米不足にも関わらず、米は江戸へ回送されていた。



図5 下図中の救民の字

↓
1837年、⁽⁹⁾ _____
…大坂町奉行所の元**与力**で⁽¹⁰⁾ _____ 学の学者⁽¹¹⁾ _____ が、
貧民救済のために門弟や民衆を動員した武装蜂起

…蜂起は半日で鎮圧、(11)は自刃したが、全国に大きく影響

◇(11)…隠居後、自宅に家塾⁽¹²⁾ _____ を開いて(10)学を教授

↓
1837年、⁽¹³⁾ _____
…(9)の影響を受けた国学者⁽¹⁴⁾ _____ が、(11)門弟と称して、
越後柏崎の代官所を襲った事件



図6 大塩の乱

●アメリカの接近—外患

1837年、⁽¹⁵⁾ _____
…幕府がアメリカ商船モリソン号を⁽¹⁶⁾ _____ に基づき砲撃した事件
…モリソン号の江戸湾来航の目的は、日本人漂流民送還と通商交渉

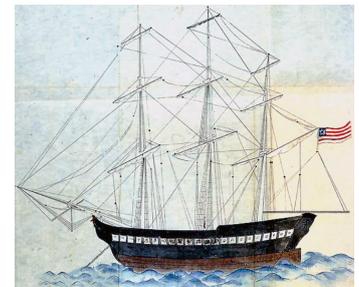


図7 モリソン号

↓
1838年、次の2人の蘭学者が、(15)や幕府の対外政策を批判する書を著した。

- ①三河国の田原藩家老⁽¹⁷⁾ _____ の『⁽¹⁸⁾ _____』
②陸奥国の町医者⁽¹⁹⁾ _____ の『⁽²⁰⁾ _____』

↓
1839年、⁽²¹⁾ _____
…(17)(19)を含め、知識人の勉強会**尚齒会**^{しょうしかい}の出席者が逮捕された事件
…逮捕後、(17)(19)は(15)を批判した理由で処罰、その他の者は無実



図8 渡辺華山



図9 高野長英

もう1つの顔の持ち主!?—大塩平八郎

大塩平八郎は、蜂起の2週間前に蔵書を売り、得た代金で貧民を救済したと歴史教科書で称賛される。ところが、水戸藩に伝わる史料に、米不足に困る同藩が大塩から大量の米を斡旋してもらったと記されている。当時、同藩主徳川斉昭を大塩が敬慕していたことは有名な話であった。もし実話であれば、この斡旋もまた米不足・米価高騰の一因になり、大塩も庶民を苦しめた元凶の1人ということになる。

